

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	九州大学	整理番号	H02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) くぼ ちはる 氏名・職名 久保 千春・九州大学総長		
2. プログラム責任者	(ふりがな) はらた あきら 氏名・職名 原田 明・九州大学大学院総合理工学府長		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) たにもと じゅん 氏名・職名 谷本 潤・九州大学大学院総合理工学府環境エネルギー工学専攻教授		
4. 類型	H <複合領域型(環境)>		
5.	プログラム名称	グリーンアジア国際戦略プログラム	
	英語名称	Advanced Graduate Course in Global Strategy for Green Asia	
	副題	アジア圏から世界に環境・エネルギーイノベーションを発信する理工系リーダー養成プログラム	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(理学)、博士(工学)、博士(学術) グリーンアジア国際戦略プログラム		
7. 主要分科	(① 環境学) (② 材料工学) (③ 総合工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 環境動態解析、環境影響評価・環境政策、環境技術・環境材料、分析化学、合成化学、環境関連化学、機能材料・デバイス、金属物性、無機材料・物性、複合材料・物性、反応工学・プロセスシステム、触媒・資源化学プロセス、地球・資源システム工学、リサイクル工学、エネルギー学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院総合理工学府量子プロセス理工学専攻、物質理工学専攻、環境エネルギー工学専攻、大学院工学府地球資源システム工学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	九州電力株式会社、新日鐵住金株式会社、宇部興産株式会社、住友金属鉱山株式会社、ダイキン工業株式会社、福岡県、福岡市、北九州市、マヒドン大学(タイ王国)、マレーシア日本国際工科院(マレーシア)、シンガポール国立大学(シンガポール共和国)、インド工科大学(インド共和国)、バンドン工科大学(インドネシア共和国)、ダッカ大学(バングラデシュ人民共和国)		

(機関名: 九州大学

類型: 複合領域型(環境)

プログラム名称: グリーンアジア国際戦略プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 41 名						
外国人の人数	7 人	[17.1%]	女性の人数	5 人	[12.2%]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [73.2 %]						
プログラム実施大学に属する者			30 人	プログラム実施大学以外に属する者		11 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者			26 人	そのうち、大学等以外に属する者		5 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者)					
原田 明	ハラダ アキラ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授/大学院総合理工学府・学部長	分析化学工学博士	事業の総括, 専門教育<分析化学・分光学>, メンター, 運営委員会(委員長), 国際アドバイザリーボード(リーダー)を担当
(プログラムコーディネーター)					
谷本 潤	タニモト ジュン		大学院総合理工学府・環境エネルギー工学専攻・教授	都市建築環境学工学博士	プログラム全体の統括推進, 専門教育<人間-環境-社会システム学>, 運営委員会(副委員長), 国際アドバイザリーボード(サブリーダー), 予算管理委員会(委員長), 連携委員会(委員長), 他を担当
浜本 貴一	ハマモト キイチ		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	光エレクトロニクス Dr. Sc. Techn.	専門教育<光エレクトロニクス工学>, メンター, 運営委員会, 企画委員会を担当
西田 稔	ニシダ ミル		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	材料組織学工学博士	専門教育<結晶物性工学・材料組織学>, メンター, 学務委員会, 連携委員会を担当
林 潤一郎	ハヤシ ジュンイチロウ		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	反応工学博士(工学)	副プログラムコーディネーター, 専門教育<化学工学・反応工学>, メンター, 運営委員会, 人事委員会(委員長), 企画委員会を担当
伊 聖昊	イ ソウホ		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	炭素材料工学工学博士	専門教育<材料工学・素子材料>, メンター, 連携委員会を担当
中島 寛	ナカシマ ヒロシ		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	電子材料工学工学博士	専門教育<半導体デバイス工学>, メンター, 企画委員会を担当
菊池 裕嗣	キキ ヒロツグ		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	液晶工学博士(工学)	専門教育<機能分子工学>, メンター, 学務委員会を担当
岡田 重人	オカダ シゲト		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	電気化学理学博士	専門教育<無機化学・電気化学>, メンター, 連携委員会を担当
大瀧 倫卓	オホタリ 倫卓		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・教授	無機材料化学工学博士	専門教育<無機材料化学・工業物理化学>, メンター, 運営委員会を担当
堤井 君元	ツヅイ 君元		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・准教授	プラズマ工学博士(工学)	専門教育<プラズマ材料工学・無機材料・物性>, メンター, 予算委員会を担当
吾郷 浩樹	ゴウキョウ 浩樹		大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻・准教授	材料・分子工学工学博士	専門教育<材料科学>, メンター, 広報委員会を担当
水野 清義	ミズノ セイギ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授	表面科学博士(理学)	副プログラムコーディネーター, 専門教育<表面科学>, メンター, 運営委員会, 学務委員会(委員長)を担当
中島 英治	ナカシマ ヒデアキ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授	構造材料物性学工学博士	専門教育<構造材料物性学>, メンター, 運営委員会を担当
青木 百合子	アオキ ユリコ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授	量子化学理学博士	専門教育<量子化学・理論化学>, メンター, 企画委員会を担当
永島 英夫	ナガシマ ヒデオ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授	有機金属化学工学博士	専門教育<有機・高分子合成化学>, メンター, 運営委員会, 国際アドバイザリーボード, 連携委員を担当
松本 広重	マツモト ヒロシゲ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授	固体イオニクス博士(工学)	専門教育<固体イオニクス工学>, メンター, 学務委員会を担当
波多 聰	ハタ サトシ		大学院総合理工学府・物質理工学専攻・教授	金属物性学博士(工学)	専門教育<金属物性学>, メンター, 予算委員会を担当
小山 繁	コヤマ シゲル		大学院総合理工学府・環境エネルギー工学専攻・教授	熱工学工学博士	専門教育<機械工学・熱工学>, メンター, 人事委員会を担当
伊藤 一秀	イトウ カズヒデ		大学院総合理工学府・環境エネルギー工学専攻・准教授	建築環境工学博士(工学)	専門教育<建築環境工学・公衆衛生工学>, メンター, 企画委員会を担当
萩島 理	ハギシマ リ		大学院総合理工学府・環境エネルギー工学専攻・准教授	都市気候学博士(工学)	専門教育<都市環境学>を担当, メンター, 学務委員会を担当
笹木 圭子	ササキ ケイコ		大学院工学府・地球資源システム工学専攻・教授	環境修復学博士(工学)	副プログラムコーディネーター, 専門教育<環境修復学>, メンター, 広報委員会(委員長)を担当
平島 剛	ヒラシマ ツヨシ		大学院工学府・地球資源システム工学専攻・教授	資源処理工学工学博士	専門教育<資源処理工学>, メンター, 運営委員会, 国際アドバイザリーボード, 連携委員会を担当
渡邊 公一郎	ワタナベ コウイチロウ		大学院工学府・地球資源システム工学専攻・教授	地球資源科学理学博士	専門教育<資源地質学>, メンター, 人事委員会を担当

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有)	
プログラム募集定員数(実数)	15人	20人	20人	人	
① 応募学生数	8人	31人	57人	2人	
	うち留学生数	0人	25人	50人	0人
	うち自大学出身者数	5人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	うち他大学出身者数	3人(0人)	29人(25人)	55人(50人)	1人(0人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	1人(0人)	10人(9人)	17人(17人)	0人(0人)	
② 合格者数	6人	17人	21人	2人	
	うち留学生数	0人	11人	14人	0人
	うち自大学出身者数	4人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	うち他大学出身者数	2人(0人)	15人(11人)	19人(14人)	1人(0人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	0人(0人)	7人(6人)	2人(2人)	0人(0人)	
③ ②のうち受講学生数	6人	16人	17人	2人	
	うち留学生数	0人	10人	10人	0人
	うち自大学出身者数	4人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	うち他大学出身者数	2人(0人)	14人(10人)	15人(10人)	1人(0人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	0人(0人)	7人(6人)	2人(2人)	0人(0人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	1.33倍	1.82倍	2.71倍	1.00倍	
充足率(合格者数/募集定員)	40.00%	85.00%	105.00%	0.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度	
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計			
うち留学生数	6	-	-	-	-	6	-	6	-	-	-	6	-	-	6	-	-	6	-	-	-	6	-	-	6		
うち自大学出身者数	0	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	0	-	-	0		
うち他大学出身者数	4	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	4	-	-	4	-	-	4	-	-	-	4	-	-	4		
うち社会人学生数	2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-	-	2	-	-	2	-	-	-	2	-	-	2		
うち女性数	0	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	0	-	-	0		
うち留学生数							16	-	-	-	-	16	-	15	-	-	-	15	-	9	5	-	-	14			
うち自大学出身者数							10	-	-	-	-	10	-	10	-	-	-	10	-	9	1	-	-	10			
うち他大学出身者数							2	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	1	-	0	1	-	-	1			
うち社会人学生数							14	-	-	-	-	14	-	14	-	-	-	14	-	9	4	-	-	13			
うち女性数							0	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	0	-	0	0	-	-	0			
うち女性数							7	-	-	-	-	7	-	6	-	-	-	6	-	6	0	-	-	6			
うち留学生数													17	-	-	-	-	17	9	8	-	-	-	17			
うち自大学出身者数													10	-	-	-	-	10	9	1	-	-	-	10			
うち他大学出身者数													2	-	-	-	-	2	0	2	-	-	-	2			
うち社会人学生数													15	-	-	-	-	15	9	6	-	-	-	15			
うち女性数													0	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	0			
うち女性数													2	-	-	-	-	2	2	0	-	-	-	2			
うち留学生数																			-	-	2	-	-	2			
うち自大学出身者数																			-	-	0	-	-	0			
うち他大学出身者数																			-	-	1	-	-	1			
うち社会人学生数																			-	-	1	-	-	1			
うち女性数																			-	-	0	-	-	0			
うち女性数																			-	-	0	-	-	0			
計	6	0	0	0	0	6	16	6	0	0	0	22	17	15	6	0	0	38	9	17	7	6	0	39			
修了者数	0						0						0						6	7							
就職者数	0						0						0														
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	10						7						2						1								

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本教育プログラムは、**グリーン化と経済成長を両立したアジア(グリーンアジア)**の実現に資する理工系リーダーの養成を目的とする。資源消費の飛躍的削減と経済成長との両立は、人類社会の課題である。そして、アジアは、文化・社会的な多様性を内包し、経済成長と環境問題との相互矛盾を抱えつつも、活力あるマルチングポット状態となって発展しつつある典型的なモデル地区としての意味を有する。

世界の国々が、化石資源大量消費に由来する環境・資源制約を回避しつつ持続的な経済発展を遂げるためには、**資源消費量低減とGDP増大との両立**という、人類が実現したことのない成長戦略が求められる。今世紀、貧富差の拡大、グローバル化が持つ負の側面の顕在化、アジア諸国のエネルギー消費の急増と化石資源の価格高騰の中で、我が国が貢献すべきは、欧米主導型と一線を画したグローバルモデルの提示によるグリーンアジアの実現にある。**グリーンアジア国際戦略**とは、アジア・オセアニア圏の各国の歴史と文化に根ざした社会・産業・経済の自立的・持続的な発展を基本としたソフトな、かつ、グリーン化と成長との相乗効果をもたらす強靱なグローバルネットワーク形成によってグリーンアジア実現を図るものである。

【特色】グリーン化と成長の両立(資源消費の飛躍的削減と付加価値生産力増大の同時達成)が命題となる次世代産業では、現有技術を生産プロセス・製品・サービスが一体となった**付加価値指向のグリーンエンジニアリング**へと深化させることが求められている。このような産業革新を牽引する次世代の理工系リーダーには、①サービスを起点に、製品→製造プロセス→プロセス要素技術→素材・部材→物質(資源・エネルギーリソース)へと向かってマルチステップ/スケールの**遡上の思考ができる能力**、②システムの全容を俯瞰し、構成要素に課題を見だし、必要なら原理から考察する**解析・抽出能力**、さらに、③要素技術の革新(シーズ)をプロセス、製品・サービスへと**展開する能力**が求められる。これらの力を統合し、実践するのが産業界や政策提言・立案機関におけるリーダー像であり、研究力として発揮するのが大学における産学連携のリーダー像である。

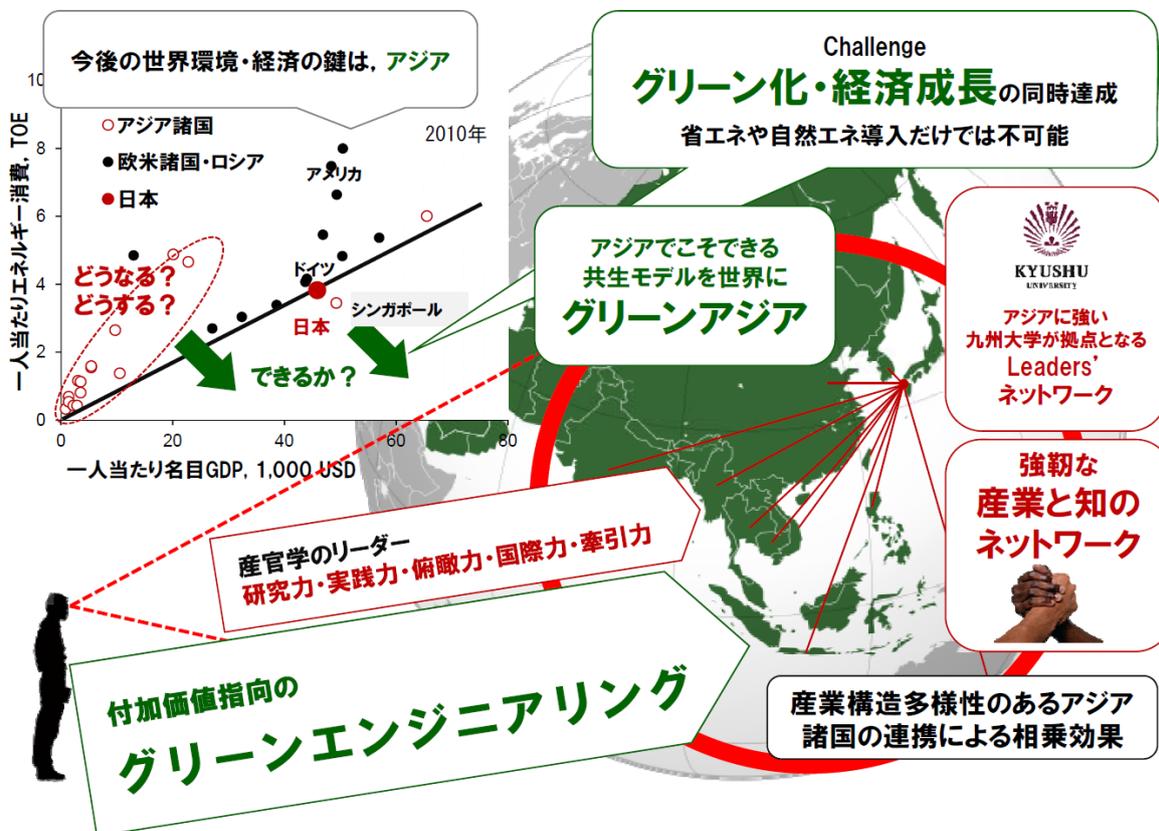
理工系大学院博士課程学生は、世界レベルの先端研究の実践過程で高度な専門力を獲得する。専門力は上述①～③の能力の裏打ちとなり、論文研究の過程でこれら能力が“潜在的”な形で養成される。しかし、これらを顕在化、強化し、一歩進んだ実践力や研究力へと統合することは容易ではない。社会学、経済学、工学系のシステム学を専門にリンクさせて能動的に学ぶことができれば、理工⇔人文のアナロジーが発現し、技術や産業を介して社会を俯瞰する力を養成できる。企業における生産や先端技術開発の現場を自身の専門を介して経験することも、①～③の能力を統合するために重要である。そして、理工系リーダー力をアジアに展開するには、**アジア・オセアニア諸国の社会・文化を知の基盤に統合**し、国際力と牽引力の発揮に繋げることが必要である。座学のみでこのような知と能を獲得するのは不可能であり、アジアの生産・研究開発の現場で活動し、共に勉学するなかでアジアの同志を得る等の経験無くしてグリーンアジア戦略にリアリティーは生まれない。そこで、各能力に対応する知識を得るために下表に示すコースワーク、演習・研修および研究を組む。

能力	主な修得方法等	対応する科目等
研究力	①3つの異分野研究室における研究、②先端研究を通じた高度専門知識の修得、③複数専攻に跨がる専門科目履修	①研究室ローテーション制のもとでの講究、②ステージ制のもとでの博士論文研究、③主専門科目・拡張専門科目、等
実践力	①国内、海外の研究開発現場における実践活動、②企業等から招聘する講師による講義	①プラクティス・スクール(国内企業)、インターンシップ(海外機関、国内機関)、②産業実践科目、等
国際力	①英語での表現力、議論力、記述力の鍛錬、②社会学、経済学の修得	①2つのタイプの国際演習(A・B)、②環境学、社会・経済学履修、等
俯瞰力	①経済・社会学、環境学の学修、②理工系・人文社会系の知の統合	①環境学、社会・経済学履修、②国際演習A(グリーンアジアフォーラム)と自由課題論文作成、等
牽引力	①2種の国際演習におけるリーダーの担当、②国内外の研究開発リーダーに接して行う実践、③後輩学生への研究指導演習	①2つのタイプの国際演習におけるリーダー担当、②プラクティス・スクールおよび海外・国内インターンシップ、③研究指導演習、等

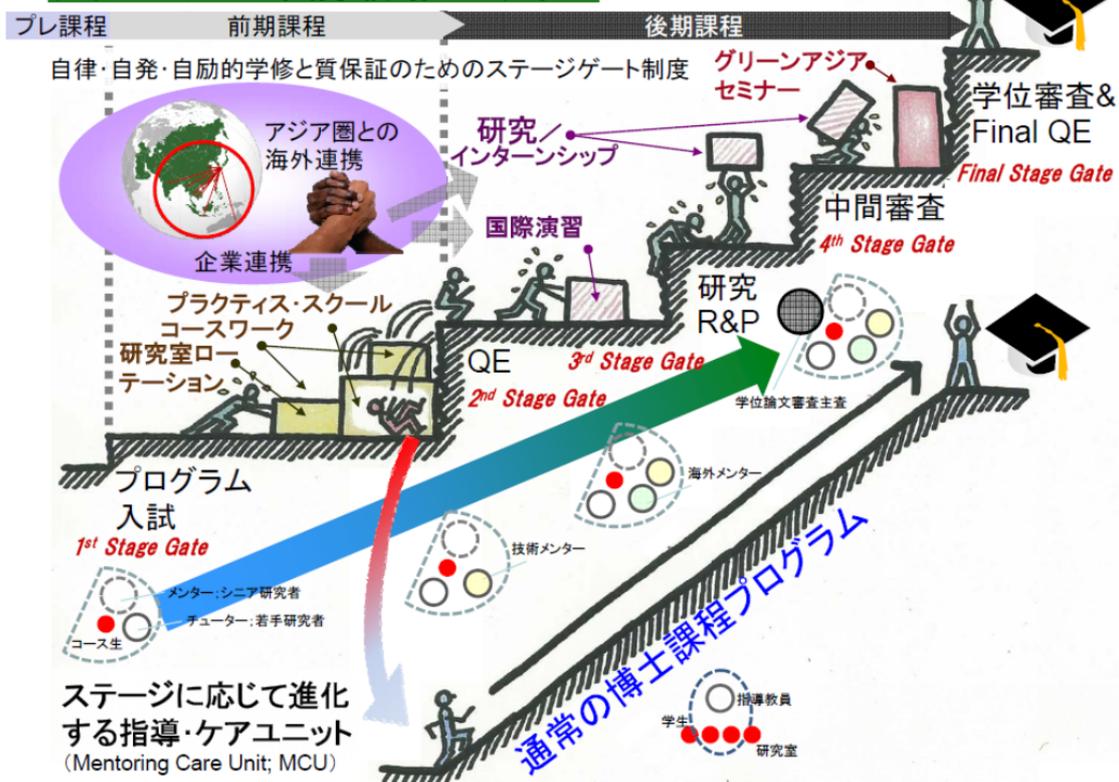
【優位性】修士・博士5年一貫教育である本プログラムの優位性は、I.教育システムの蓄積、II.アジア地域ネットワークと文理・産官学協同、III.教育効果保証システム・研究指導体制(進化型指導ケアユニット)、外部評価をベースに据えたプログラム構成にある。本プログラムの要となる九州大学の総合理工学府3専攻と工学府地球資源システム工学専攻は、広く国内外の他大学卒業生やアジア等からの留学生を受け入れ、学際的大学院教育を推進してきた。最近では、グローバル30、グローバルCOE、キャンパスアジア等を駆動力にグローバル人材を養成する大学院教育改革に積極的に取り組んでいる。実績と基盤を踏まえ、3つの学術分野=**物質材料科学・システム工学・資源工学**のいずれかを専門とする大学院生が、自身の専門+他の2専門分野、および3分野の総体としての**環境学**、加えて社会学・経済学の基礎を複合的に学び、さらに、国内外の実践経験を積むことによって、理工系リーダーとなるに相応しい必要な**五つの力=研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力**を獲得し、同時に、**アジア人材ネットワークを形成する**ためのリーディングプログラムを提供する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



グリーンアジア国際戦略プログラム



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	九州大学	整理番号	H02
プログラム名称	グリーンアジア国際戦略プログラム		
プログラム責任者	原田 明	プログラム コーディネーター	谷本 潤

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

【総括評価】

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、プログラムの理念が学生に浸透し、良好な状況になってきている。また、5年間で5つのゲートを順次通過させる仕組みであるステージゲート制により教育の質が保証され、各ステージに応じて連携・研修先担当者をメンターに組み入れるなど指導体制が定着しつつあることは評価できる。このように、リーダーを養成する学位プログラムの構築が計画通り進んでいる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、国内の企業・研究機関における研究開発などの実習を課すプラクティススクールにより、広く社会経済を俯瞰できるような教育がなされており、グローバルリーダーとしての活躍が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、①研究室ローテーション、②プラクティススクール、③国際インターンシップなどを通じて国内外の実践経験を積み、常に国際的視野を広げることを意識しながら、理工系リーダーとなるに相応しい五つの力（研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力）を獲得させる取組がなされていることは評価できる。

優秀な学生の獲得については、留学プログラム検索サイトを通じた情報発信により、多数の留学生を確保しているが、日本人学生は依然として少ない。より多くの優秀な日本人学生の獲得に向けて工夫すべきである。なお、学生への経済的支援については、支援期間終了以降も奨励金支援を継続し、学生が安心して研究とプログラムの活動に専念できるよう配慮されたい。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、国際インターンシップによる海外の企業・研究機関での実習など、国際的な視点を意識しつつ、ステージゲート制により各ステージにおいて厳密な評価が行われることにより質が保証され、充実したシステムが構築されている。

事業の定着・発展については、学内の他の2つのリーディングプログラムとの連携も進められ、本事業の学内での定着と発展が期待できる。「博士課程教育リーディングプログラム」の理念に従い、日本の大学院教育のモデルとなることが期待される。